DATA SECTION

事業計画及び成長可能性に関する事項

データセクション株式会社
2026年６月30日
証券コード：3905

目次

DATA SECTION

1．会社概要

2．ビジネスモデル

3．市場環境

4．競争力の源泉

5．事業計画

6．リスク状況

7．Appendix

© Datasection Inc.

1. 会社概要

© Datasection Inc.

We ARE ...

What we will be ...

What we should do ...

Change the Frame

世界のデータ部「セクション」として
人々の暮らしを世界中でバージョンアップし続ける
テクノロジーで実社会に変革をもたらし、
新しい暮らしをつくりあげる

トップメッセージ

代表取締役社長執行役員CEO
石原 紀彦

日頃より、当社の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

デジタル化の加速により、グローバルベースで企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進や、企業活動におけるAIの活用が進展する中、こうした産業構造の変化は、各方面における新たな社会課題を発現させ、企業活動においても今後さらに、デジタル化の推進などの変革が必要となってくるものと思われます。

当社は設立以来、 「AI」 と「データ」領域にその強みを見出し、企業価値を高めて参りましたが、こうした環境変化を更なる飛躍へのチャンスととらえております。

今後も、株主の皆様をはじめ、お客様、パートナーの皆様、地域社会、すべてのステークホルダーの皆様のご期待にお応えするべく、グループ役職員一丸となってサスティナブルな事業成長を図り、「Change the Frameテクノロジーで実社会に変革をもたらし、新しい暮らしをつくりあげる。」とのミッションを実現してまいります。

今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

© Datasection Inc.

会社概要

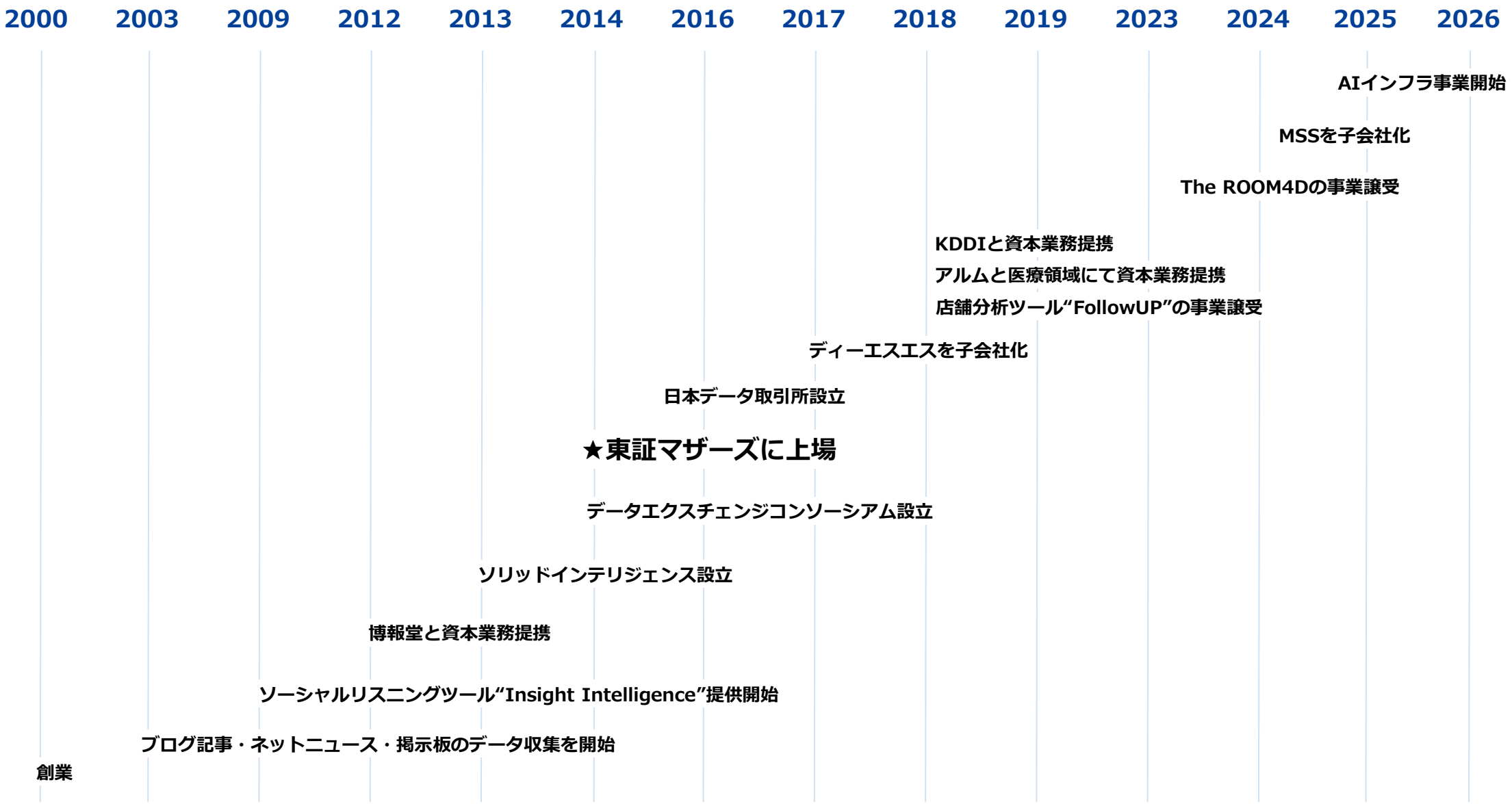
データセクション株式会社

所在地	東京都品川区西五反田１丁目３-８五反田PLACE 8F	
設立日	2000年7月11日	
資本金	9,843,224千円（2026年６月30日現在）	
役員構成	取締役会長	Pablo Casado Blanco
	代表取締役社長執行役員CEO	石原 紀彦
	取締役	John Ellis Bush Jr.
	取締役（監査等委員）	土田 誠行
	社外取締役（監査等委員）	German Alcayde Fort
		平山 剛
	CBO	Scott Trowbridge
	シニア・アドバイザー	H.E. Anders Fogh Rasmussen
		Paula J. Dobriansky, Ph.D.
従業員数	250名（連結ベース）	

事業内容	AIインフラ データサイエンス システムインテグレーション マーケティングソリューション
証券コード	**3905** 東証マザーズ上場（2014年）
株主	アースエレメンツ・キャピタル株式会社 First Plus Financial Holdings PTE. Ltd. 東海東京証券株式会社 Futu Securities International (HK) Ltd. 株式会社SBI証券 株式会社VLCセキュリティ その他

© Datasection Inc.

会社沿革



© Datasection Inc.

経営陣紹介

Pablo Casado Blanco
取締役会長

石原 紀彦
代表取締役
社長執行役員CEO

John Ellis Bush Jr.
取締役

土田 誠行
取締役
監査等委員

German Alcayde Fort
社外取締役
監査等委員

平山 剛
社外取締役
監査等委員

© Datasection Inc.

グループ概要

当社グループは、AI・データ分析分野における技術力、グローバルネットワークを強みとし、ネオクラウド企業として、あらゆるセクターの成長をサポート

	主要な事業内容
データセクション株式会社	AIインフラ事業（旧 AIデータセンター事業）
主要連結子会社（全て100%子会社）	
株式会社ディーエスエス	システムインテグレーション事業 データサイエンス事業
株式会社MSS	マーケティングソリューション事業
ソリッドインテリジェンス株式会社	マーケティングソリューション事業
Jach Technology SpA※	マーケティングソリューション事業

※ 2026年6月29日付「連結子会社の異動（株式譲渡）及び特別利益の計上見込みに関するお知らせ」のとおり、事業ポートフォリオ最適化のため、Jach Technology SpAを同年７月に売却予定

© Datasection Inc.

サステナビリティ方針

100年後の世界と人々の暮らしに貢献する。

© Datasection Inc.

世界中で人々の暮らしを向上させ続ける
という強い意志を胸に、持続可能な成長と
企業の飛躍を目指します。

2000年の創業以来、データセクション株式会社は「技術と実社会の融合」という価値観を大切にしてきました。

新しいテクノロジー、例えばビッグデータ解析やAI、深層学習（ディープラーニング）などを活用し、それらを社会に実装することで、より良い未来を作ることが可能だと信じています。

私たちは地球規模の課題ー少子高齢化、労働力人口の減少、食糧問題、セキュリティーそして社会構造自体に対しても、企業としての責任を強く意識しています。このビジョンを実現するため、グループ企業の全従業員が一丸となって取り組み、企業価値の向上に努力を続けます。

さらに、これらの取組を具体的かつ持続的に推進する方針として、
「データセクション株式会社のグループサステナビリティ方針」を策定しました。

１００年後の世界と
人々の暮らしに貢献する。

「Change the Frame」というミッションには、私たちの核となるビジョンである
「世界中で人々の暮らしを進化させ続ける」という意志が強く反映されています。

データセクショングループとして、グローバルなビジネスフィールドで活動を展開しており、
その目標は100年後も人と地球が共存し、繁栄する未来の形成です。

この目標に向かって、私たちはテクノロジーの先駆者としての役割を果たし、
持続可能な社会の実現に全力で取り組んでまいります。

グローバルなパートナーシップをもとにイノベーションを生み出します

南米の子会社を中心に安定した経営のサポートをすることにより、発展途上国の開発技術の創出、新たなビジネスの拡大の手助けとなっています。さらにグローバルでの継続定期なパートナーシップを基に、総務省と共にチリの公共機関でのオペレーションの改善に自社サービスを導入し、国境を超えたイノベーションを生み出しました。

グローバルベースでダイバーシティとインクルージョンを推進します

東南アジアの企業とパートナーシップを組み、国の制度に基づいた労働環境を守りながら多様性の推進を実現しています。2022年より男性の育児休暇制度を導入、女性社員は増員傾向にあり、性別や家庭環境などへの理解を示し柔軟な組織体制へ変化してきました。すでに多国籍のエンジニアの採用は積極的に行っており、生まれ、人種、文化の違いに関係なく働ける環境があります。

未来の世界を担う多様な人材を育成し輩出します

データサイエンスがビジネスの中核となっていく近未来に向けて、データの活用方法や分析結果を様々な立場の人に分かりやすく伝えることができる人材を育てるための教育プログラムを提供。データサイエンスへの理解の促進、あらゆる業界で活躍できる データサイエンティストの人材輩出に貢献します。

コンプライアンスを徹底しコーポレートガバナンスの強化に努めます

定期的な上層部と全社員との1on1や希望者は経営会議を傍聴可能とする制度を設けるなど、透明性のある風通しの良い会社を目指しています。目的別に外部の人材と対応しており、ビジネスにおいては専門家のアドバイスと共にスケールを試み、産業医と連携することで社員の心身の健康をサポート。

2．ビジネスモデル

© Datasection Inc.

事業分類

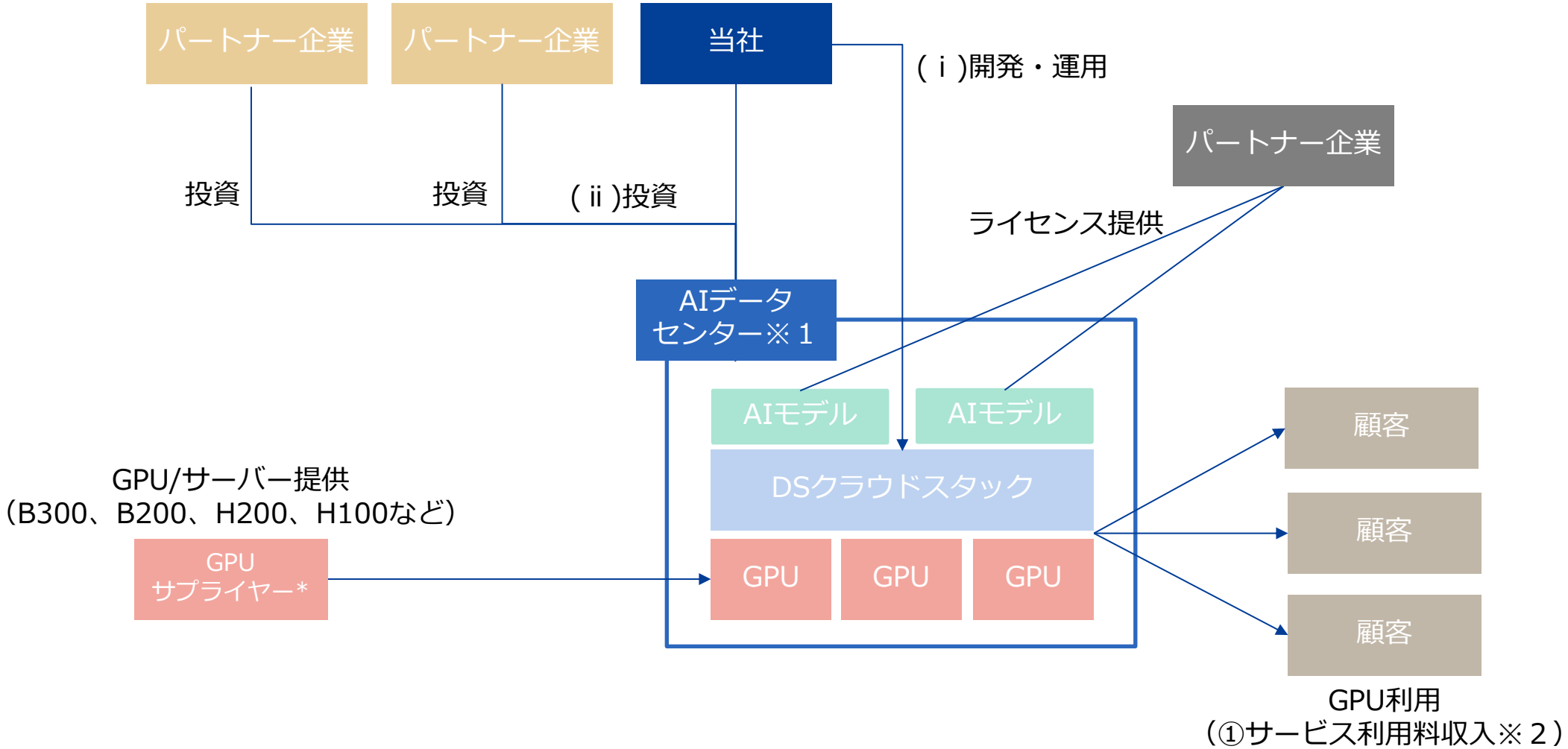
- AIインフラ事業

- その他事業：
  ・データサイエンス事業
  ・システムインテグレーション事業
  ・マーケティングソリューション事業

© Datasection Inc.

AIインフラ事業－ストラクチャー／A：直接投資型

- AIデータセンターへの直接投資型の場合は、**１パターンの売上構造**
- 顧客からのサービス利用料収入を主に、AIデータセンター開発時は開発投資のリターンがあるケースも
- AIインフラ事業は2025年９月より売上計上、同10月より本格化

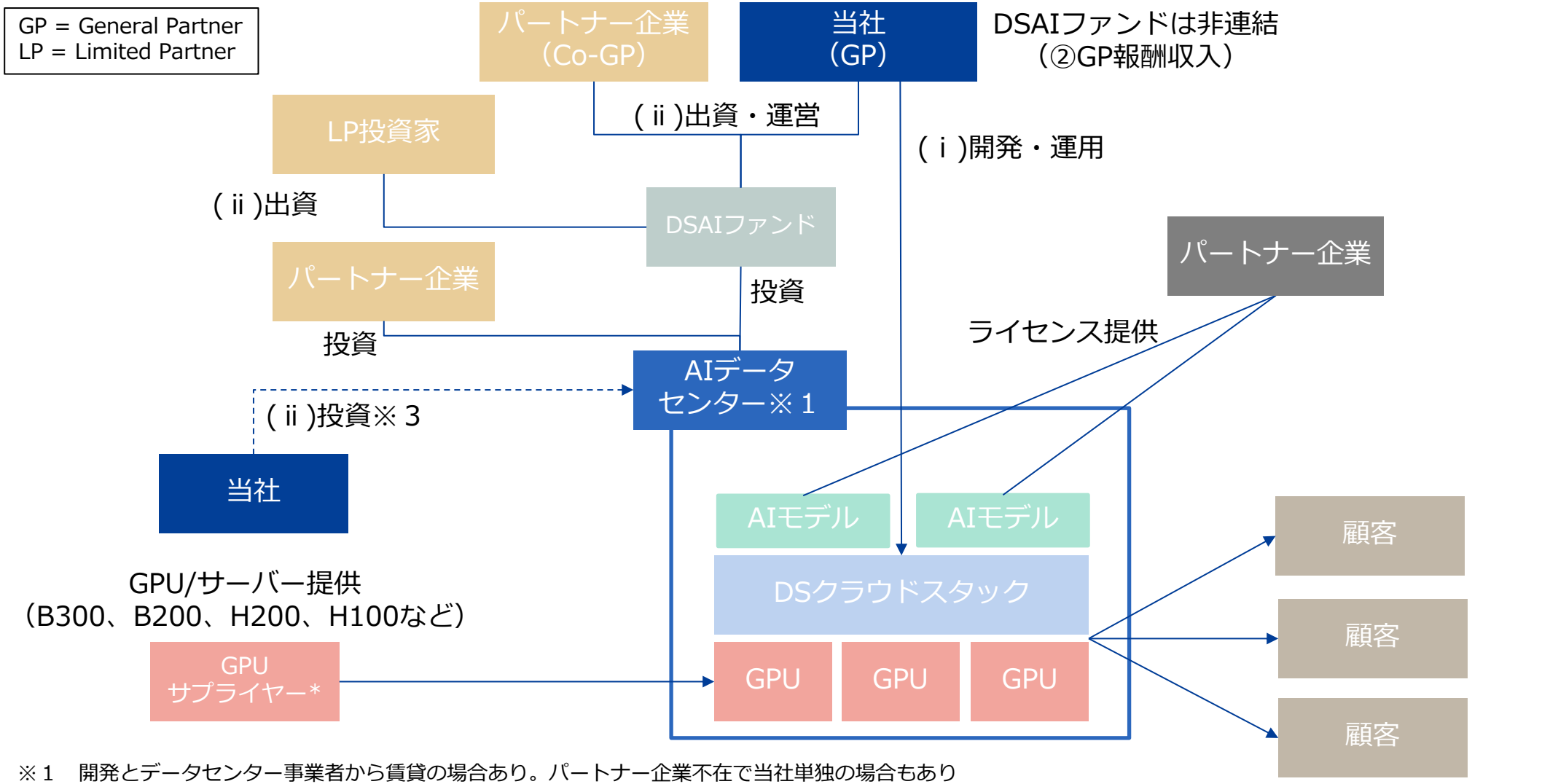


※１　開発とデータセンター事業者から賃貸の場合あり。パートナー企業不在で当社単独の場合もあり
※２　顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェアの場合も（パートナー企業存在時のみ）
(*) 2025年６月30日開示「事業計画及び成長可能性に関する事項」記載のGPU提供（①販売手数料収入）は想定せず

© Datasection Inc.

AIインフラ事業－ストラクチャー／B：ファンド投資型

- AIデータセンターをファンドから支援する場合は、**２パターンの売上構造**
- 顧客からのサービス利用料収入に加えて、DSAIファンド投資からのリターン
- 現在はより収益性の高い「直接投資型」の案件を優先

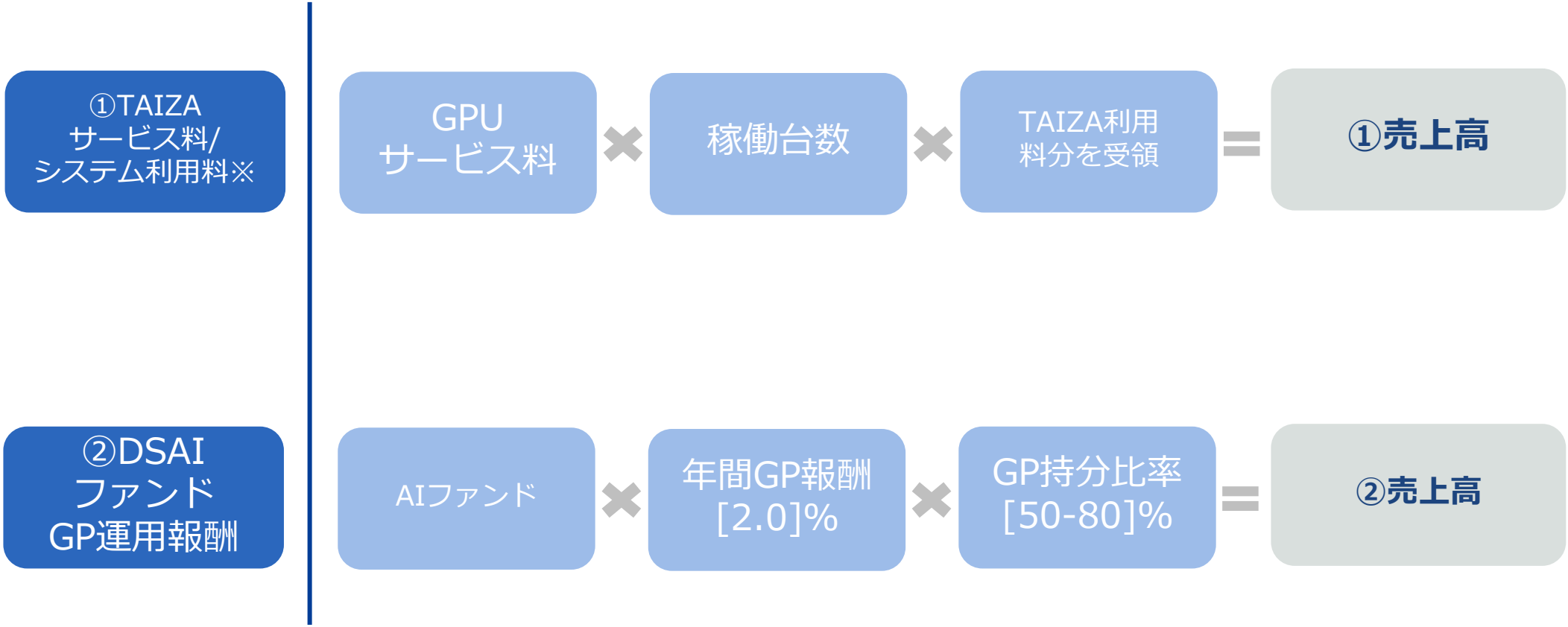


※１　開発とデータセンター事業者から賃貸の場合あり。パートナー企業不在で当社単独の場合もあり
※２　顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェアの場合も（パートナー企業存在時のみ）
※３　当社が直接投資するAIデータセンターもDSAIファンドの投資対象となる可能性あり
(*) 2025年６月30日開示「事業計画及び成長可能性に関する事項」記載のGPU提供（①販売手数料収入）は想定せず

© Datasection Inc.

AIインフラ事業－収益モデル

- AIインフラ事業からは、主に以下の**２パターンの収益**を想定
- 現在はより収益性の高い「直接投資型」の案件を優先しており、②GP報酬は案件依存



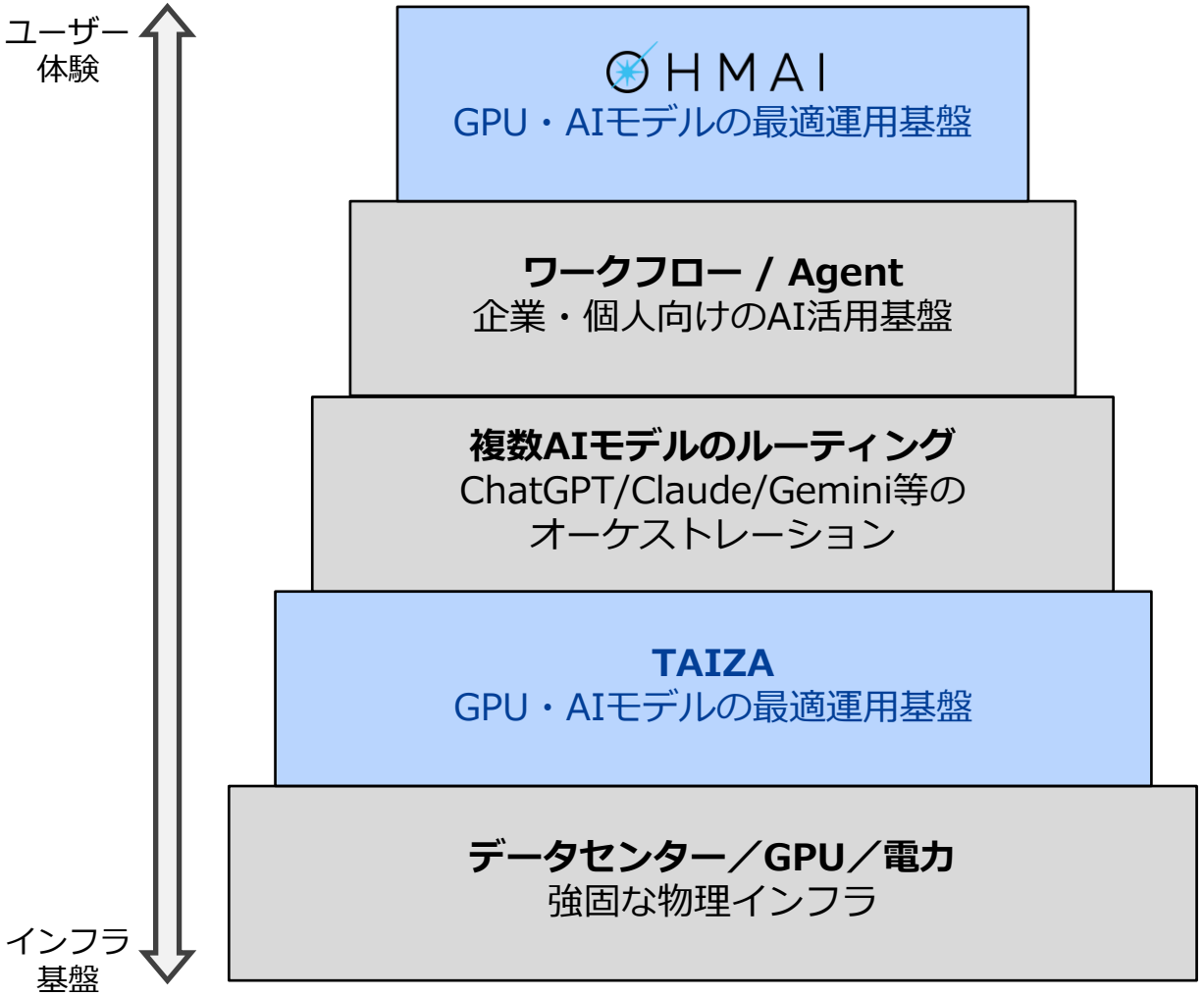
※TAIZA：大型GPUクラスターの運用を最適化する当社独自アルゴリズムシステム

© Datasection Inc.

AIインフラ事業（AIサイドキックデバイス「OHMAI」）

- フルスタックAI構想：AIインフラから、AIモデル運用、最終ユーザー体験までを一気通貫で持つ
- 複数の主要AIモデルを1つのシンプルな体験に統合する、手のひらサイズの次世代AIサイドキックデバイス「OHMAI」のグローバルローンチ

当社グループが打ち出す構造



中核となる２つの要素

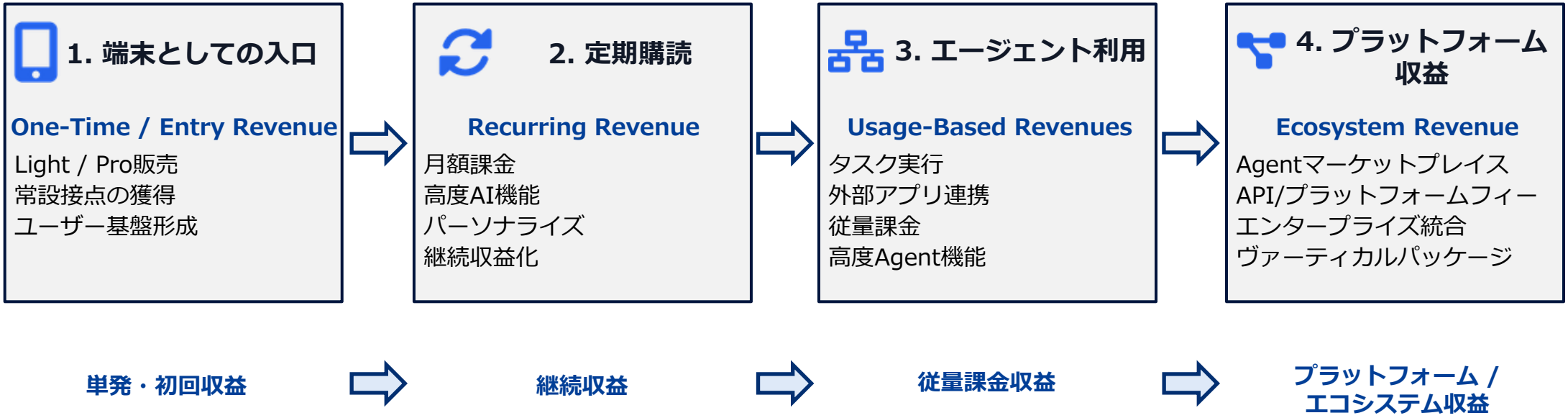
■ TAIZAの役割（頭脳・制御基板）
AIモデルやGPUリソースを効率よく動かすためのオーケストレーション基盤

■ OHMAIの役割（生活者向け接点）
TAIZAやDSグループのAI基盤を、一般ユーザーが自然に使うためのインターフェース。
複雑なAIインフラを、声とデバイスで使える形に翻訳した専用インターフェース

© Datasection Inc.

AIインフラ事業（AIサイドキックデバイス「OHMAI」） – 収益モデル

- デバイスを入口に、継続収益・従量課金収益・プラットフォーム収益を積み上げる多層型モデル
- ハードウェア単体の販売ではなく、ユーザーとの常設接点を起点に、Agent Economyの収益レイヤーを拡張する次世代AIプラットフォーム事業（LTVの拡大）



© Datasection Inc.

3．市場環境

© Datasection Inc.

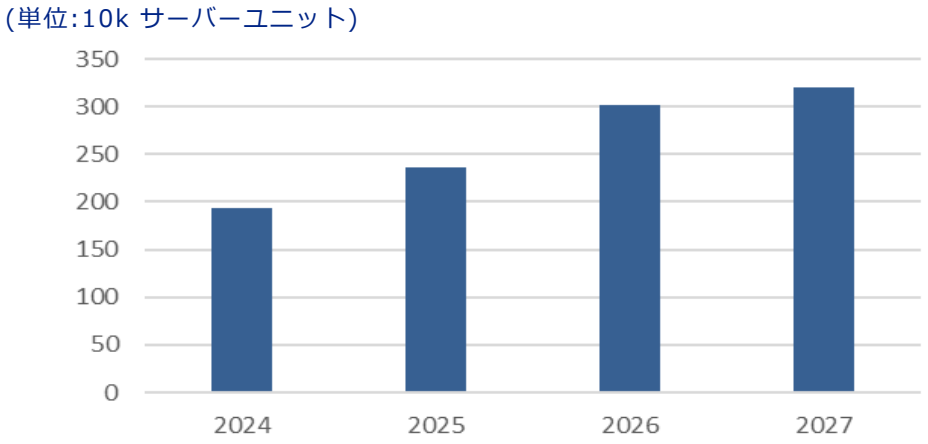
AIインフラ事業－AIコンピューティング需要の指数関数的な増大

従来のAIから生成系AIに移行したことで、AI計算の処理量と速度が飛躍的に向上

- 大規模言語モデル(LLM)は急激に成長(1)。映像生成技術の急速な進展に伴い、LLMよりもはるかに高い計算能力を擁する動画生成のインフラが必要(2)
- 例えば、自動運転では、より迅速な意思決定と行動計画が必要となり、複雑な決定を迅速に実行し、大量のリアルタイムデータを処理することが求められている(3)
- 多くの企業が、生産性、創造性、競争力の強化を進めるためにAIを活用し始める中、強力なAIインフラの需要も増加。2033年までにAIインフラ市場は4,000億米ドルを超え、2024年から2033年までの年間成長率(CAGR)は、27.53%に達すると予測(4)
- **Graphics Processing Unit(GPU)(*)含むAIサーバーの生産能力が不足している(5)中、コンピューティングパワー需要は増加(6)。**AIモデルのトレーニングに必要な計算能力は約６カ月ごとに倍増する(6)一方で、生産能力が追いつかず、高性能AIサーバーが世界中で不足(5)
- **AIサーバー市場は、2024年から2027年までの間に年平均成長率（CAGR）が24.7%と予測。**AIサーバーの市場規模は、2024年の200万台から、2027年には320万台に増加すると推測(7)

トレーニング・コンピュータ・リソース(6)

2024～2027年にかけてのAIサーバーユニット年平均成長率(7)



(*) 画面の描画を行う専用の装置に搭載されている演算用の処理装置

© Datasection Inc.

AIインフラ事業－AIインフラストラクチャには多額の投資が必要

当社は、世界のAIインフラストラクチャへのニーズに向けファンドを通じて資本を調達

- AIインフラストラクチャへの投資は大規模な一方、計算能力が大幅に不足する環境になっており、大企業でさえリソースの確保は困難[5]。AIインフラストラクチャへの投資は、数十億米ドル規模となると予測されており[4]、**限られた資本の中小企業にとってはより困難**
- **当社は、この課題に取り組むためのファンド(DS AI Infrastructure Global Investment Fund(仮称)、以下「DSAIファンド」)の設立を決定(2024年7月4日)**※。グローバル投資家を誘致し、資金的支援を確保することで、現在の世界的なGPU 不足の問題解決とAIの活用によるビジネス活動の活性化を目指す
- 案件の本格化により、資本市場や金融機関からの調達も随時可能に

※案件に応じてDSAIファンドを活用した「ファンド投資型」あるいは「直接投資型」を選択
※現在はより収益性の高い「直接投資型」の案件を優先

当社は米国、欧州との密接な協力関係を構築し、GPU調達とプロジェクト組成を推進

- **AIは、**最近の地政学的リスクの高まりの中で、ドローン、衛星、顔認識、大量のデータ分析の使用を通じて、**安全保障上の課題解決策として注目**[8]
- **欧州にも焦点。**数十年にわたる投資不足と米国への依存(米国の7,135億ユーロに対して欧州諸国の2,930億ユーロ[9])の後、**欧州の防衛費は2026年までに4,530億ユーロに増加する**と予測[9]、5年間で53%の増加が見込まれ、2030年までには１兆ユーロに迫ると予測[9]
- AI技術に関しては、米国は厳しい輸出規制を実施し、強化の方向。**今後、米国との関係が強い国や安全保障上のパートナー国のみが、必要な輸入許可および技術支援を得る**ことができることを示す[10]
- 当社は、台湾の主要サプライヤー６社との提携を通じ、**最先端GPUの調達が可能**

© Datasection Inc.

AIインフラ事業－出典一覧

(1) “Can AI Scaling Continue Through 2023?“, EPOCH AI

(2) “Video generation models as world simulators (February 2025)”, OpenAI

(3) “Edge Computing for Real-Time Decision Making in Autonomous Driving: Review of Challenges, Solutions, and Future Trends (2024)”, Jihong XIE, Xiang ZHOU, Lu CHENG

(4) “Artificial Intelligence (AI) Infrastructure Market Size, Share, and Trends 2024 to 2033 (April 2024)”, Precedence Research

(5) “AMD's AI head explains how it's tackling Nvidia's 'lock-in' and the AI chip shortage (July 2024)”, BUSINESS INSIDER

(6) “Compute Trends Across Three Eras of Machine Learning”, Jaime Sevilla, Lennart Heim, Anson Ho, Tamay Besiroglu, Marius Hobbhahn, Pablo Villalobos

(7) “Taiwan Accounts for 90% Global AI Server Shipments with Two Major Growth Drivers Anticipated in 2024 (January 2024)”, Market Intelligence & Consulting Institute

(8) “Artificial Intelligence and National Security (November 2020)”, Congressional Research Service

(9) “Invasion of Ukraine: Implications for European Defense Spending (December 2022), McKinsey

(10)“The generative world order: AI, geopolitics, and power (December 2023)”, Goldman Sachs

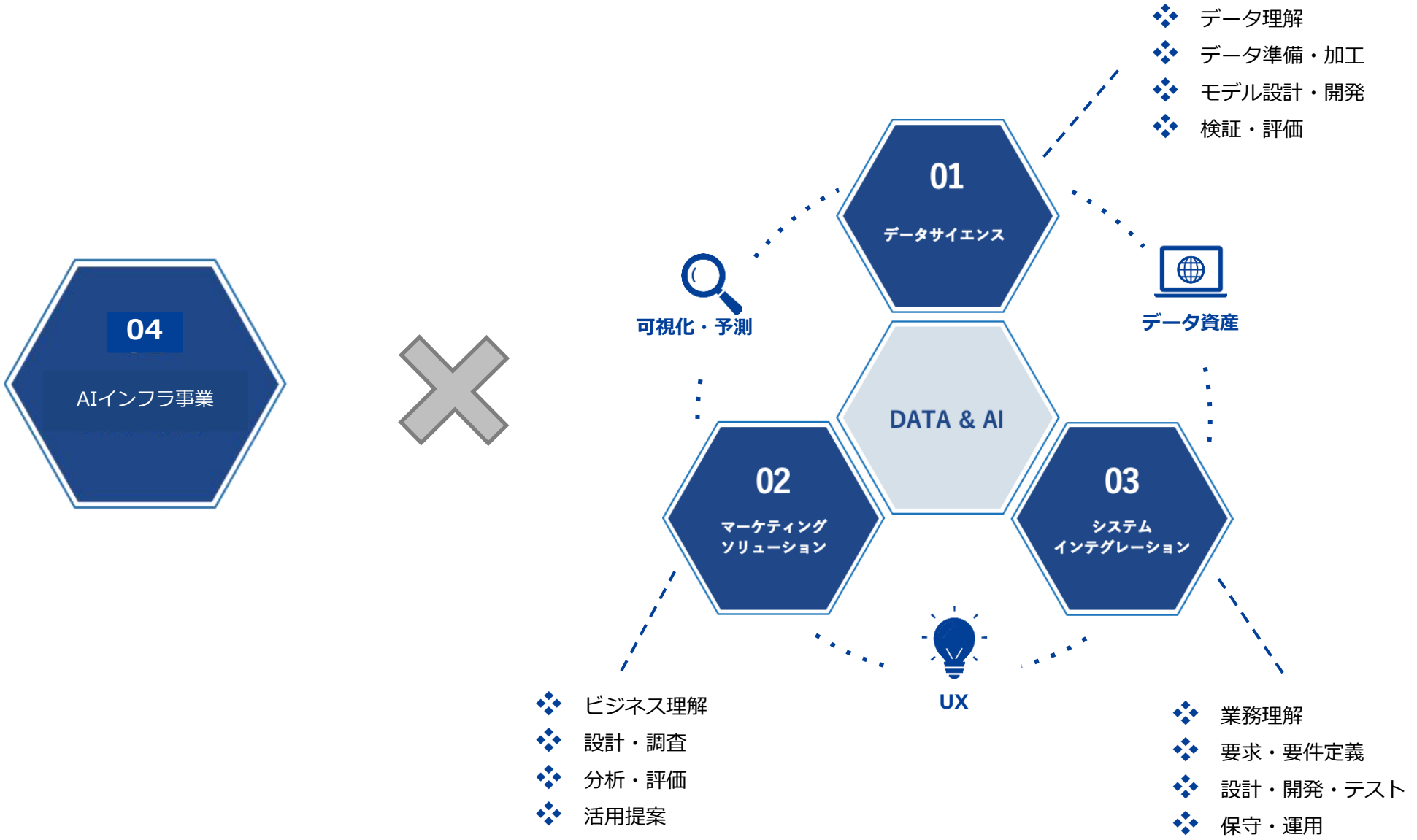
© Datasection Inc.

４．競争力の源泉

© Datasection Inc.

データセクショングループの事業シナジー

- 業種を問わず適用可能な、実績豊富な３つのデータソリューションで構築した既存事業の基盤も生かして、新規事業のAIインフラ事業を推進



© Datasection Inc.

AIインフラ事業－マーケット環境

AIインフラ事業を取り巻く環境

	AIデータセンターに必要な主要機能	業界が直面する課題
開発時	GPU	NVIDIA社製品が市場で逼迫
	サーバー等周辺機器	NVIDIA社のパートナーメーカーの生産キャパシティが逼迫
	土地・設備	ゼロから開発する場合3年以上かかる
	EPC	建設ラッシュで建設業者を確保できない
運営開始後	AIクラウド運営	ハイパースケーラー級の最高効率・操作性のプラットフォームは開発が困難
	データセンター運営	最新機器を運営できる知見を有する企業が限られる
	電力	電力容量が日本のみならず世界中でで逼迫
	顧客開拓	競合に先んじて機能をテストしないと、大規模な顧客を確保は難しい

当社は、業界が直面する課題にチャレンジすることで、ハイパースケーラーに対しても競合優位性を獲得していく

© Datasection Inc.

AIインフラ事業－データセクションの戦略

AIインフラ事業のチャレンジ

以下課題を解決できる事業者のみがデータセンター事業で成功

- 政治リスクを回避しながら、GPUなど主要設備機器を確保可能か
- AIデータセンターの基盤ソフトウェアの技術開発力を有しているか
- 速い速度で開発・建設、あるいは賃貸物件の内装・機器導入を終えることが可能か
- 大量の電力キャパシティが確保できるか

データセクションの戦略

技術を軸とした戦略的提携で業界のボトルネックを抑え、最速で事業化実現

1. 台湾の強豪メーカーとパートナーシップを構築、優先的にGPU確保
2. 2014年上場以降、技術者がAIクラウドを更に強化
3. 業界経験を有する事業者・関係者との連携により、早期にキャパ計画を構築
4. 電源はあるが稼働停止している工場をリパーパスする手法を確立、あるいは、既存データセンターを大口賃貸

実現したビジネスモデル

当社の戦略により、すでに以下の実績を実現済み

- NVIDIA社の台湾の委託製造パートナー６社とGPU確保に関し協業で合意
- AIモデルの推論、GPUの効率を最大限発揮させるクラウドスタック『TAIZA』を開発
- 欧州・APACで実績を持つ業界プレイヤー等と関係構築・提携
- 著名データセンター事業者複数社とも関係構築

© Datasection Inc.

1 台湾サプライヤーと業務提携、逼迫市場でもGPUサーバーを確保

2024年11月15日／11月21日／12月２日／12月23日／2026年５月7日／６月４日

NVIDIA社のパートナーサプライヤーである台湾メーカー６社と業務提携の基本合意または売買合意
各国の案件に向けたGPUサーバーラックについて、製造キャパシティを継続協議

サーバー調達の分散化とボリューム確保状況
(サーバーサプライヤー別の交渉状況)

SUPERMICRO
(売上高3兆5,200億円, 2025)

2024/4/12

Inventec
(売上高3兆3,177億円, 2023)

2024/11/15

wistron
(売上高10兆9,000億円, 2025)

2024/11/21

GIGA COMPUTING

2024/12/2

Quanta Computer
(売上高10兆3,000億円, 2025)

2024/12/23

COMPAL
(売上高3兆6,360億円, 2025)

2026/5/7

ASRock Rack

2026/6/4

© Datasection Inc.

② 当社が開発するDSクラウドスタック『TAIZA』はハイパースケーラーと同等以上の性能を保持・正式ローンチ

2025年３月31日

オープンソースなAIモデルを使用しての推論（AIモデル同士で出力結果の検証・洗練の推進）が、効率的、柔軟、手軽に出来る初めてのクラウド基盤ソフトウェア。顧客による段階的なテストも実施

圧倒的な操作性・効率性を実現

AIモデルの開発・アウトプット洗練に特化

Configuration

NVIDIA製GPUでの分散トレーニング実行をテスト済み

複数のオープンソースのAIモデルを並列で組み込み、推論可能

Proprietary Acceleration

AIモデル開発のパフォーマンスを向上させるための専用の技術を実装

要求精度と工数の自動バランシングや、自動でのメモリ冗長性削除等

利用顧客とリソースへの負荷を最小化

Automatic Sharding

待機状態のGPU等のリソースを自動で特定、パイプラインを割振り

AIフレームワーク間をパラメーター数などに応じ並行して移行可能

Flexible API Interface

必要リソース・AIフレームワークを2,3ステップで選択し、すぐに開発開始

顧客の開発ニーズに合わせてデフォルトで仕様環境を準備

AIデータセンター運営に特化したクラウドスタックの開発を行えるエンジニアの技術力

© Datasection Inc.

③ Stability AI初期メンバーのScott Trowbridge氏がCBOとして参画

2026年３月９日

- **AIインフラ事業のグローバル展開を強化・拡大するため、生成AI企業Stability AIの初期メンバーであるScott Trowbridge氏をChief Business Officer（CBO）に任命**
- **生成AIの普及に伴いAIインフラ需要が急拡大する中、同氏の知見とグローバルネットワークの活用により、AI企業や研究機関とのパートナーシップを拡大し、AIインフラ事業の基盤強化とグローバル展開を加速**

“グローバルなAI産業がこれほどエキサイティングな局面を迎えているなかで、データセクションの経営に参画することを大変嬉しく思います。

AIの普及ペースは驚異的で、既に組織の4分の3以上がAIを活用しており、市場規模は現在の数千億ドルから今後10年で1兆ドルを大きく超えると予測されています。

AIインフラ、GPUコンピューティング、次世代データセンターへの需要が世界中で加速している様子を私は直接目にしてきました。

データセクションはこの新たなAI経済を支える上でユニークなポジションにあり、このチームと共に事業を拡大し、次世代AIを構築する顧客を支援できることを楽しみにしています。“

© Datasection Inc.

4 元米国務次官Paula J. Dobriansky, Ph.D.氏がアドバイザリーカウンシルのメンバーに就任

2026年６月16日

- **元アメリカ合衆国国務次官（民間安全保障・民主主義・人権担当）であるPaula J. Dobriansky博士が当社のアドバイザリーカウンシルメンバーに正式就任。米国政府における数十年の外交経験と国際的な知見を活かし、当社のグローバル展開において重要な役割を担う**
- **同氏の参画により、経営方針やグローバル戦略における意思決定をさらに強化し、国際市場における事業の飛躍的な成長を目指す**

■ Paula J. Dobriansky博士の略歴

・国際安全保障および外交政策の著名な専門家

・現在は、大西洋評議会（Atlantic Council）スコークロフト戦略安全保障センターの副議長、およびハーバード大学ベルファー科学・国際関係センターのシニアフェロー

・30年以上にわたるキャリアの中で、国務次官（地球規模問題担当）、国家安全保障会議（NSC）欧州・ソ連担当ディレクター、国務副次官補（人権・人道問題担当）など、米国政府の要職を歴任

・北アイルランド担当大統領特使も務め、米国国務省の最高栄誉の殊勲章を受章

■ コメント

“この度、アドバイザリーカウンシルに参画できることを大変光栄に思います。

急速に進化する今日のデジタル環境において、先端技術とデータ駆動型のソリューションは、持続可能な経済成長と国際競争力を推進する極めて重要な原動力です。

外交、国家安全保障、および戦略的ガバナンスにおける30年以上の経験を活かし、データセクションが国際的な存在感を拡大し、成長を加速させ、重要な機会を切り拓き、新たなパートナーシップを構築していく中で、石原氏をはじめとする同社の経営陣へ助言と支援を行っていくことを楽しみにしています。“

© Datasection Inc.

5．事業計画

© Datasection Inc.

当社のミッション：AIで世界中で人々の暮らしを向上させ続ける

**強力なグローバルプレゼンスと独自のビジネスプランを
ベースにAI市場でのリーディングカンパニーを目指す**

- 当社は、2014年に東京証券取引所に上場。テキスト分析やAI開発技術に基づくビッグデータからの分析サービスを提供してきたが、2025年より、GPUクラウドサービスを中心とする**AIインフラ事業の展開を開始**

- 新たなAIクラウドスタックとして、『TAIZA』 (GPUのAI機能を最大限効率化するためのアルゴリズム)を開発、機能強化・提供拡大を目指す

- AI産業での総合的な技術力と、地政学的ニーズに対応するための**リソースを確保するため、生産工程・商流の上流から下流に至る強力なパートナーシップ・ネットワーク**を構築。それらを生かし、生産工程における上位過程のメーカーでの生産ボトルネックや現在の世界的なGPUの深刻な不足の解決を目指す

- **アジア太平洋地域や欧州を中心にグローバルで新しい最先端のAIデータセンター拠点を拡充**

© Datasection Inc.

業績予想数値

- **前期のAIインフラ事業のサービス提供の本格化から、更なる成長の加速フェーズに**
- **国内及びオーストラリア（以下、「豪」）の第１号データセンター案件に加えて、タイの第１号データセンター案件の収益の顕在化により、業績予想数値は次のとおり**
  - **売上高：　1,621億円**
  - **営業利益：　248億円**
  - **調整後EBITDA：　581億円**

※本予想には国内第一号案件と同顧客への追加サービス提供分と、前述及び後述のプロジェクトA~C及びBの拡張分一部のみを含み、M&Aなどによる収益は含まず。また、AIインフラ事業のその他パイプラインについても合理的な数値の算出が可能となった段階で都度、業績予想を追加修正

（百万円）	26年3月期 実績	27年３月期業績予想		
		金額	差分 （金額）	差分 （増減率）
売上高	33,605	**162,193**	+128,588	+382.6%
営業利益	3,544	**24,815**	+21,270	+600.1%
調整後EBITDA	4,205	**58,191**	+53,985	+1,283.6%
経常利益	3,627	**12,542**	+8,915	+245.8%
親会社純利益	2,801	**8,704**	+5,902	+210.7%

(*) 調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

© Datasection Inc.

業績予想数値

・AIデータセンターの案件パイプラインは、本年度内に立ち上げ予定の複数案件が進んでいるが、本業績予想数値には、次の４案件を含む
  ・日本国内：NVIDIA社製のB300を5,000個（サーバー625台）
  ・豪：NVIDIA社製のB300を10,000個（サーバー1,250台）※年度内に20,000個へ拡張
  ・同顧客への追加サービス提供分
  ・タイ： NVIDIA社製のB200を5,000個（サーバー625台）

（百万円）	計画	補足説明*
売上高	162,193	■国内・豪・タイの第１号データセンター案件の年度内稼働開始 ・2026年８月から2027年３月までの８か月間の売上高 78,861百万円 ※国内案件：15,943百万円 ※豪案件：　34,164百万円＋12,811百万円（拡張分） （2027年１月より２倍の40MWへ拡張想定） ※タイ案件：15,943百万円 ■その他、同顧客への追加サービス提供分 ・売上高：79,864百万円
営業利益	24,815	
調整後EBITDA	58,191	

※本予想には国内第一号案件と同顧客への追加サービス提供分と、前述及び後述のプロジェクトA~C及びBの拡張分一部のみを含み、M&Aなどによる収益は含まず。また、AIインフラ事業のその他パイプラインについても合理的な数値の算出が可能となった段階で都度、業績予想を追加修正

(*)2026年５月15日付「2026年３月期決算短信〔日本基準〕（連結）/ １．経営成績等の概況（４）今後の見通し と同様

© Datasection Inc.

AIインフラ戦略の現状

- **2025年9月よりAIインフラ事業の売上計上を開始（9月途中からGPUクラスターを順次追加し、9月は約3億2千万円の売上を計上）**
- **GPUの運用が本格的に開始され、2025年10月より単月でAIインフラ事業において約45億円の売上を計上**
- **段階的にGPUの運用数は順次増加。2026年５月18日時点で20,000個以上達成**
- **顧客からの需要を受け、国内外で電力供給確保を加速（DCサイト契約を締結）**
- **今後、B200に加え、B300、GB200/300の大規模導入を進め、AIスーパークラスターの構築を目指す（以下、2026年のプロジェクト）**
  以下、プロジェクトA及びBは受注済み案件、プロジェクトC以降は見込案件

■ プロジェクトA：	B300	5,000個、日本
■ プロジェクトB：	B300	10,000個、オーストラリア（30,000個まで段階的に拡大）
■ プロジェクトC：	B200	5,000個、タイ
■ プロジェクトD：	GB200/300	70,000個（1,000ラック規模）
■ プロジェクトE：	GB200/300	100,000個（1,500ラック規模）
■ プロジェクトF：	B300	30,000個、場所は調整中
■ プロジェクトG：	B200	5,000個、日本
■ プロジェクトH：	B200	5,000個、日本
■ プロジェクトI：	B300	70,000個、UAE
■ 他		

© Datasection Inc.

第23回新株予約権の発行による資金調達手法の概要

- **第23回新株予約権（行使価額固定型）（以下、「本新株予約権」）の発行**
- **2025年10月17日開催の臨時株主総会にて本新株予約権の発行が承認可決され、同日に払込完了**

第23回新株予約権（行使価額固定型）	
割当予定先	First Plus Financial Holdings Pte. Ltd. （以下「FPF社」）
割当日	2025年10月17日
発行価額	総額809,600,000円　（本新株予約権１個につき1,840円）
当該発行による潜在株式数	44,000,000株　（本新株予約権１個につき100株）
希薄化率*	199.07%
行使価額**	1,250円
調達資金の額	55,809,600,000円 （内訳） 本新株予約権発行による調達額：809,600,000円 本新株予約権行使による調達額：55,000,000,000円
出資の目的とする財産の内容及び価格	本新株予約権行使に際して出資される財産： ・金銭、または、 ・2025年８月４日付極度方式基本契約（極度額35,000,000米ドル）に基づき、FPF社が当社に対して有する貸金元本債権及び当該賃金元本債権に係る利息債権の合計額
権利行使期間	2025年10月20日から2026年10月19日まで
資金使途	AIデータセンター事業における設備投資資金及び運転資金等
発行の前提条件	2025年10月17日開催予定の当社臨時株主総会において、 （１）発行可能株式総数の増加に係る定款変更に関する議案が承認されること、 （２）本新株予約件の発行に関する議案が特別決議により承認されること
その他	・割当予定先が当社取締役会の事前承認を得て本新株予約権を譲渡する場合、譲受人が割当予定先としての権利義務の一切を承継 ・割当予定先の当社普通株式の所有割合が当社の発行済株式総数の33%を超える場合、当社の事前承諾を要する ・本新株予約権の累計行使数が220,000個を超える場合、第１号AIデータセンター案件と同種のAIデータセンタープロジェクトに係る顧客との利用契約又はGPUサーバーの購入契約を締結し、当該事実を東京証券取引所のTDnetを通じて適時開示するまでは、当社の事前承諾を要する

*　2025年８月29日現在の当社の普通株式の発行済み株式総数22,103,051株に対して199.07%（総議決権数（219,674個）に対する割合200.30%。小数点以下第３位を四捨五入）
** 発行決議日前取引日の終値（2,666円）の53.11%ディスカウント

© Datasection Inc.

新株予約権の行使状況

- **第20回新株予約権（行使価額修正条項付）と第23回新株予約権（行使価額固定型）の公表済み行使状況まとめ**

第20回新株予約権（行使価額修正条項付）

・2025年７月11日付：全量行使
・全量4,400,000株（発行総数割合100%）行使、4,657,995,200円の払込金額

第23回新株予約権（行使価額固定型）

※2026年６月30日現在
・累計行使株数：　　8,210,000株（発行総数割合18.65%）
・累計払込金額：10,262,500,000円

© Datasection Inc.

新株予約権の発行・行使による調達資金の充当状況

第20回新株予約権（行使価額修正条項付）

- 累計調達金額：4,657,995,200円
- 資金使途及び充当状況（括弧内は充当金額）＊
  - (1) TAIZAの開発・構築資金： 1,000百万円（1,000百万円）
  - (2) AIデータセンター関連設備の取得資金：709百万円（709百万円）
  - (3) GPUサーバー一式の取得資金：1,648百万円（1,648百万円）
  - (4) 採用費、人件費、手元資金等の運転資金：700百万円（700百万円）
  - (5) 借入金返済：600百万円（600百万円）

第23回新株予約権（行使価額固定型）

- 累計払込金額：10,262,500,000円
- 資金使途及び充当状況（括弧内は充当金額）
  AIデータセンター事業における設備投資資金及び運転資金等：
  54,770百万円（10,262百万円）

(*) 2025年７月16日付「第第三者割当による新株式、並びに第19回及び第20回新株予約権に係る資金使途の変更に関するお知らせ」のとおり、2025年２月18日発行時より資金使途変更

© Datasection Inc.

6．リスク状況

© Datasection Inc.

事業等のリスクと対応策

	リスク度	当社グループへの影響	リスクの内容・対応策
事業投資	高	• 成長の鈍化 • 業績計画やビジネス展開上の影響	• 当社グループは、事業拡大に向け、AIデータセンター拠点の拡充を目指しております。AIデータセンターの開設には、需給がひっ迫するGPUサーバー、CPU等の調達、電力供給が十分な拠点の確保が不可欠となり、多額の資金も必要となります。AIデータセンター向け拠点や設備を確保できない場合、又はAIデータセンターの開設に必要となる資金を機動的に調達できない場合、事業等が計画通りに進捗せず、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。 • 対応策：当社グループは、AIデータセンター向け拠点の確保及び設備調達のため、グローバルネットワークの拡大、有力なメーカー・サプライヤー各社との連携の深化を推進しております。また、この必要資金を機動的に確保するため、大規模エクイティファイナンスにより自己資金を大幅に拡充するとともに、様々な調達手段の確保に努めております。
為替リスク	中	• 円換算時の財政状態・業績への影響	• 当社グループの海外子会社の財務諸表は現地通貨にて作成されるため、連結財務諸表作成時に円換算されることになり、為替相場の変動による円換算時の為替レートの変動が当社グループの財政状態及び業績等に影響を与える可能性があります。また今後、外貨建ての取引の拡大が見込まれるため、当初想定した為替レートと実勢レートに著しい乖離が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を与える可能性があります。 • 対応策：親会社と海外子会社間の取引は原則として現地通貨に集約してまいります。また、今後の外貨建て取引の拡大に対しては、決済通貨のバランス化など親会社主導で適切なリスクコントロールを行ってまいります。
地政学リスク	中	• 成長の鈍化 • 事業計画への影響	• 当社グループはグローバルに事業を展開しており、今後も更なる拡大を図ることから、グローバルベースでの地政学リスクにより、成長が鈍化し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。 • 対応策：既存拠点も含めた各地域の地政学リスクの可能性については十分に吟味し、事業ポートフォリオを構築してまいります。
人材確保	中	• 組織活動や成長の鈍化 • サービスクオリティの低下	• 当社グループは、人員規模が小さく、社内体制も会社規模に応じたものに過ぎません。そのため今後更なる業容拡大を図るためには、特に高度人材の増員が重要であると認識しております。しかしながら、このような人材の維持確保及び人材の育成が出来ない場合、あるいは役員及び社員が予期せず退任又は退職した場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。 • 対応策：当社グループでは、人材強化を最重要経営課題の一つと認識しており、エグゼクティブ採用や即戦力採用を積極的に展開しております。加えて、更なるリテンション強化のためのインセンティブ導入や評価制度の高度化、及び従業員のエンゲージメントを高めるための仕組みの導入等。人事制度の更なるブラッシュアップを図ってまいります。

※上記のリスクは、投資者の判断にとり特に重要であると当社が考える事項について、積極的な情報開示の観点から記載しているものです。また、本資料開示日現在において当社が判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。本項記載内容以外のリスクについては、本資料のほか有価証券報告書「事業等のリスク」をあわせてご参照ください

© Datasection Inc.

7. Appendix

© Datasection Inc.

2026年３月期実績

© Datasection Inc.

連結業績ハイライト

- **AIインフラ事業※のサービス提供が本格化し、下表のとおり、大幅増収、各段階利益もいずれも大幅黒字化**
- **４Q単体ベースで売上高176.7億円、営業利益38.7億円、調整後EBITDA35.0億円、経常利益40.9億円、親会社純利益33.6億円計上**

※ 2026年３月期３Q決算よりAIデータセンター事業より名称変更

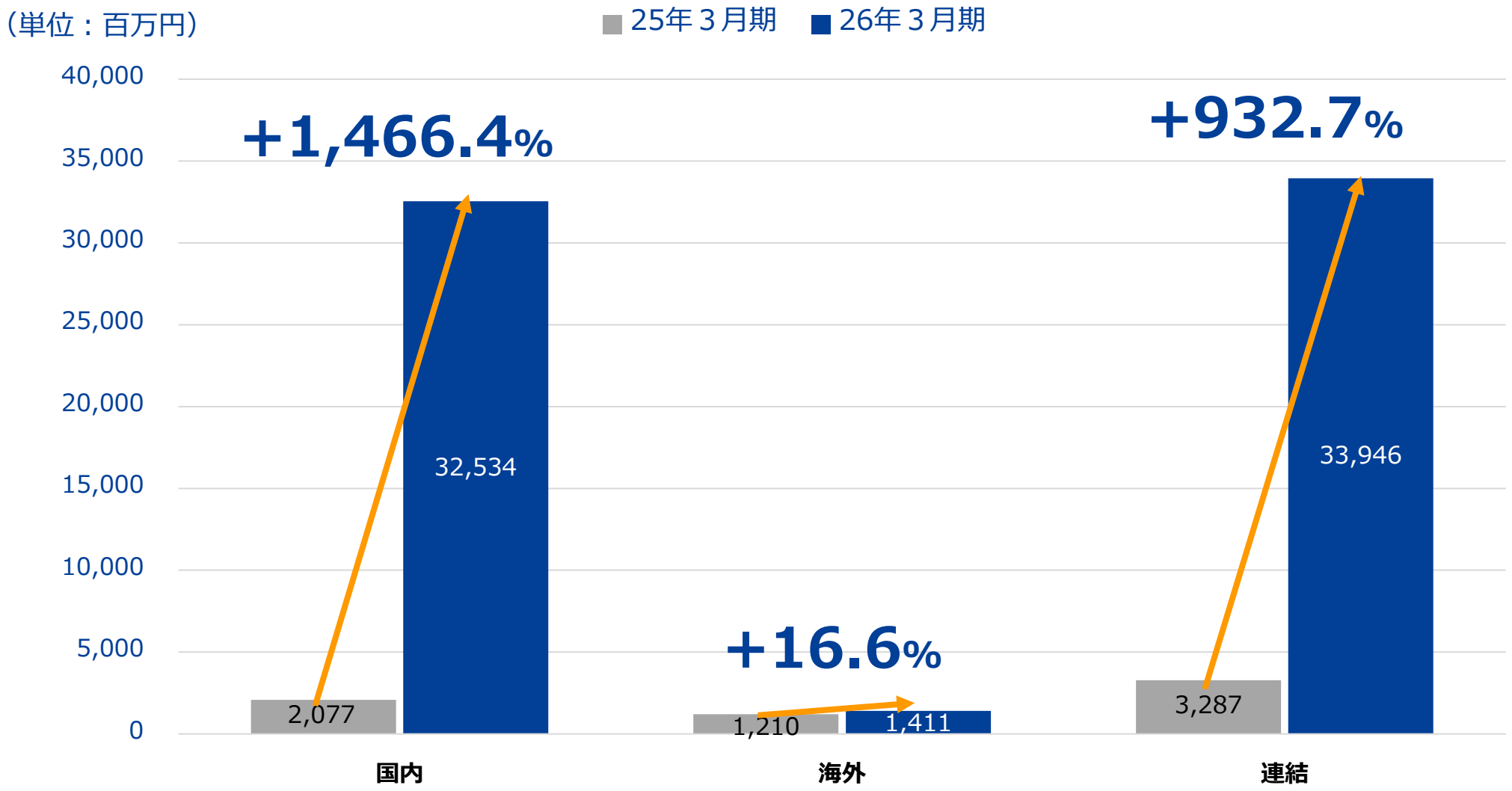
（百万円）	26年３月期 実績値	前年対比	
		実績	差分
売上高	**33,605**	2,942	+30,662
営業利益	**3,544**	▲496	+4,040
調整後EBITDA*	**4,205**	▲169	+4,375
経常利益	**3,627**	▲613	+4,240
親会社純利益	**2,801**	▲654	+3,455

(*) 調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

© Datasection Inc.

YoY_売上比較（各社単純合算ベース）

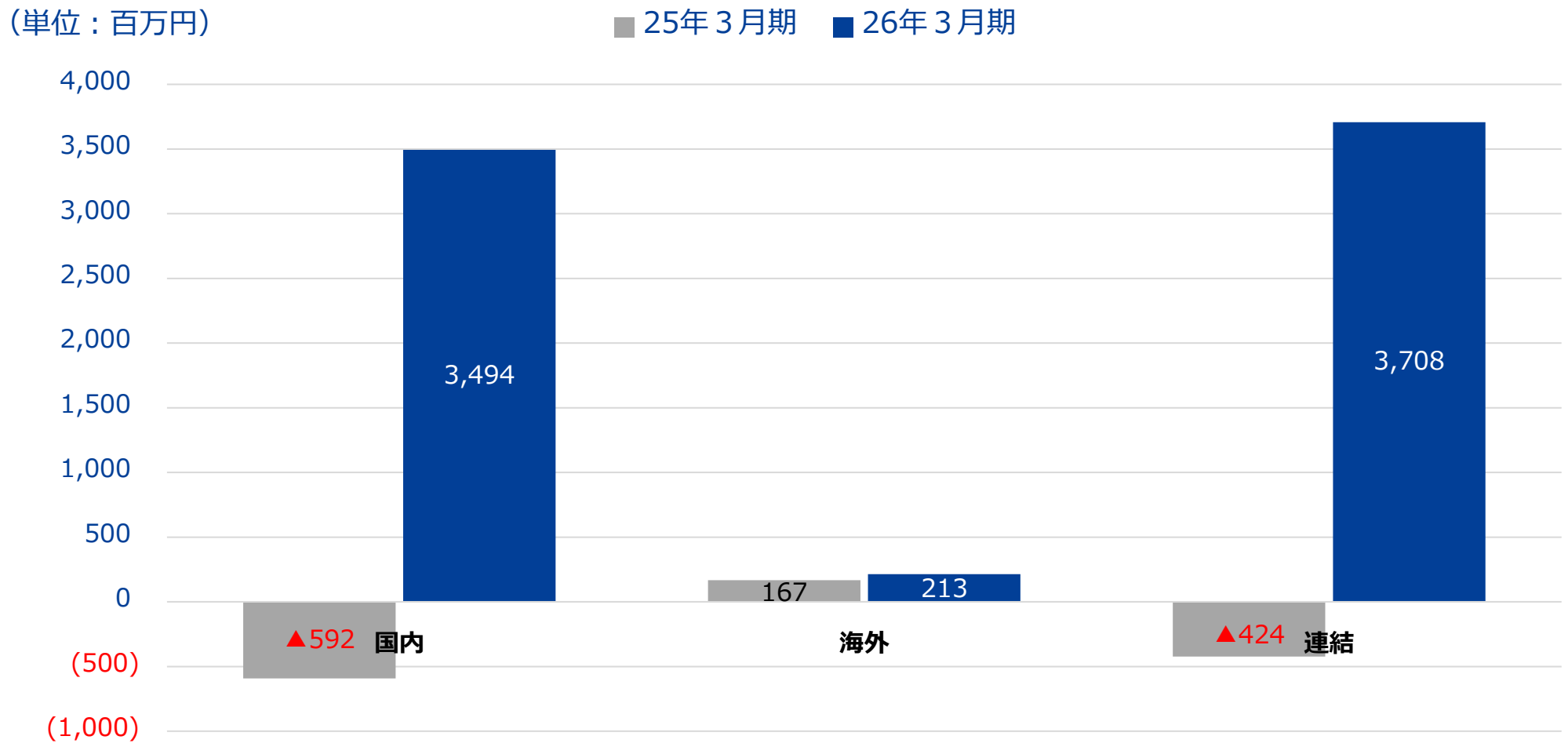
- 国内はAIインフラ事業のサービス提供が本格化し大幅成長※
  ※ AIインフラ事業関連の収支は全て国内で計上
- 海外も着実な成長



© Datasection Inc.

YoY_営業利益比較（各社単純合算ベース）

- AIインフラ事業のサービス提供の本格化し、３Qの▲202百万円から大幅改善、黒字化
- 海外は、過年度のソフトウェア開発の償却負担があるものの増益
- 連結も大幅改善、大幅黒字化



© Datasection Inc.

調整後EBITDA

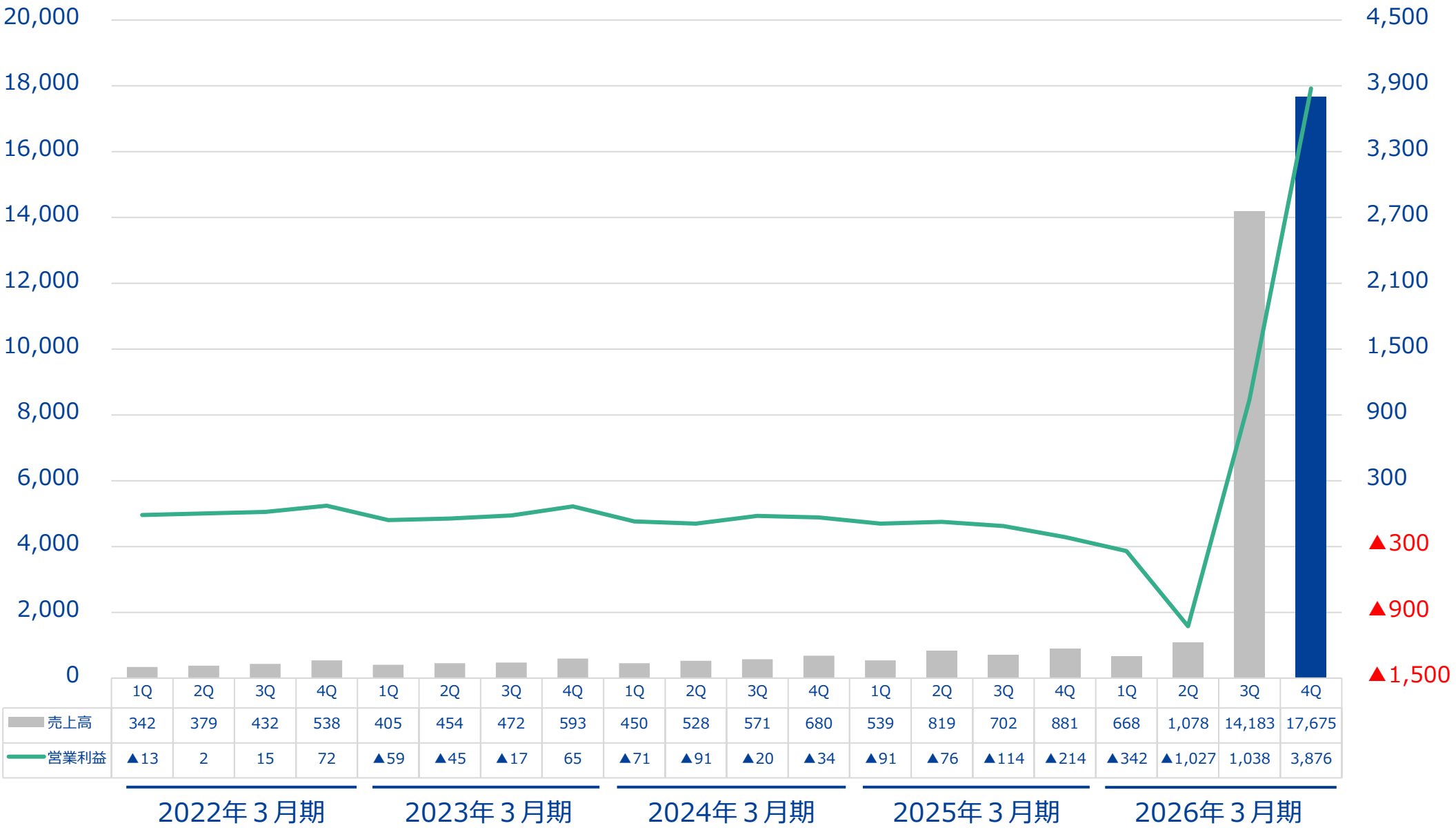
・実質的なCF創出力を示す調整後EBITDAは、３Qで黒字化、年度ベースでは42.0億円と大幅黒字化

※調整後EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A 関連費用

© Datasection Inc.

四半期毎売上高・営業利益推移（連結）

（単位：百万円）

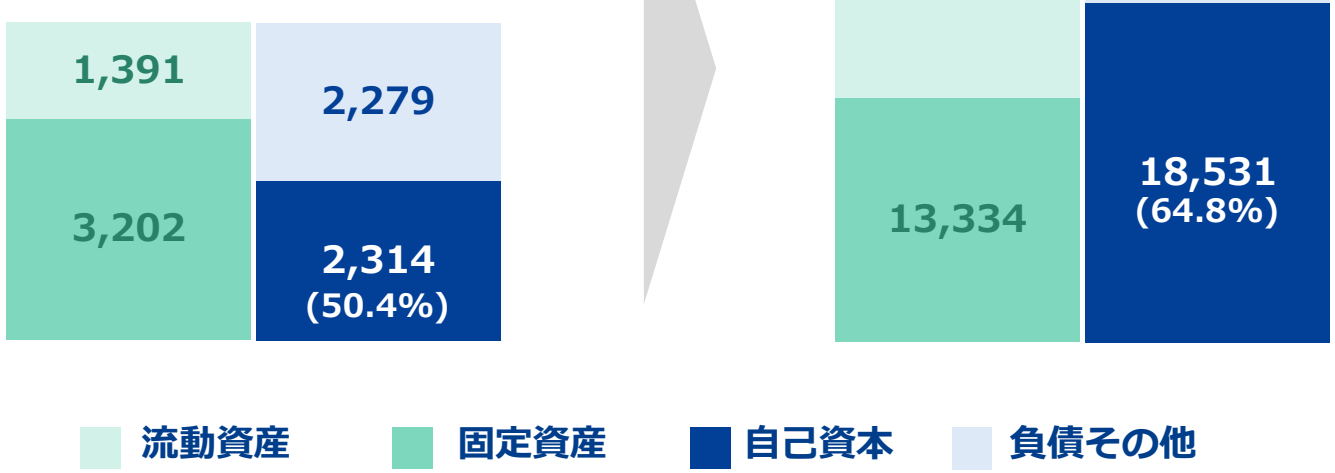


	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
	2022年３月期				2023年３月期				2024年３月期				2025年３月期				2026年３月期			
売上高	342	379	432	538	405	454	472	593	450	528	571	680	539	819	702	881	668	1,078	14,183	17,675
営業利益	▲13	2	15	72	▲59	▲45	▲17	65	▲71	▲91	▲20	▲34	▲91	▲76	▲114	▲214	▲342	▲1,027	1,038	3,876

© Datasection Inc.

連結財政状況（貸借対照表）

・第23回新株予約権の行使などにより、資本金及び資本剰余金を中心に大きく増加



（単位：百万円）

－主要な増減要因－

〇流動資産：＋13,851
- 売掛金：+10,571
- 立替金：+2,378

〇固定資産：＋10,131
- 建設仮勘定：+4,497
- 敷金：＋3,180

〇負債その他：+7,767
- 未払金：+1,578
- 預り金：+5,215

〇自己資本：+16,217
- 資本金：+6,573
- 資本剰余金：+6,571

© Datasection Inc.

データセクションのAIインフラ戦略

- 世界的にGPUへの需要が高まる環境下において、GPU獲得競争は一段と激化している。一方で、日本企業は、GPU獲得競争において後れを取り、国内AIインフラ構築は、未だ期待された成果を見せていない

- 当社は、日本企業として唯一、大規模AIクラスターの構築を進めており、GPUの大量確保、電力供給の確保、顧客の確保をグローバルで進めている

- 当社は、いわゆる“ネオ・クラウド”企業として、アジア・パシフィックにおいて圧倒的な地位をすでに確立。着実にプロジェクトのエクセキューションを進める

- 今期及び来期内のプロジェクト・パイプラインとして、B200/300及びGB200/300の導入を進めるが、AIインフラを構成する様々な要因から、大規模クラスターの構築を実現できる日本企業は現在当社を含め限定的（サプライヤーとのパートナーシップ戦略により、GPU調達力は、国内企業としては圧倒的）

- 大規模クラスターの運用を可能とする「TAIZA」が、業界での優位性を更にけん引。「TAIZA」はグローバル顧客によるテストを経て、高い評価を受けている

特殊な地政学的環境下において、日本で世界規模のAIインフラを構築することで、デジタル赤字を改善し、あらゆるセクターでの経済成長を後押しする

© Datasection Inc.

AIインフラ戦略の現状

- 2025年9月よりAIインフラ事業の売上計上を開始（9月途中からGPUクラスターを順次追加し、9月は約3億2千万円の売上を計上）
- GPUの運用が本格的に開始され、2025年10月より単月でAIインフラ事業において約45億円の売上を計上
- 段階的にGPUの運用数は順次増加。2026年５月18日時点で20,000個以上達成
- 顧客からの需要を受け、国内外で電力供給確保を加速（DCサイト契約を締結）
- 今後、B200に加え、B300、GB200/300の大規模導入を進め、AIスーパークラスターの構築を目指す（以下、2026年のプロジェクト）
  以下、プロジェクトA及びBは受注済み案件、プロジェクトC以降は見込案件

  - プロジェクトA：　B300　　5,000個、日本
  - プロジェクトB：　B300　　10,000個、オーストラリア（30,000個まで段階的に拡大）
  - プロジェクトC：　B200　　5,000個、タイ
  - プロジェクトD：　GB200/300　70,000個（1,000ラック規模）
  - プロジェクトE：　GB200/300　100,000個（1,500ラック規模）
  - プロジェクトF：　B300　　30,000個、場所は調整中
  - プロジェクトG：　B200　　5,000個、日本
  - プロジェクトH：　B200　　5,000個、日本
  - プロジェクトI：　B300　　70,000個、UAE
  - 他

© Datasection Inc.

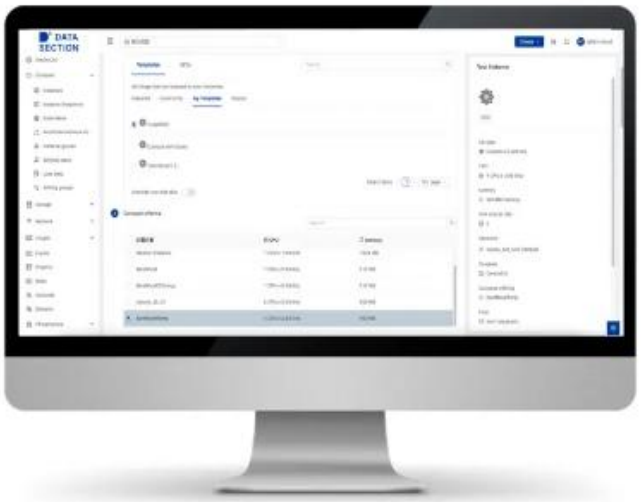
TAIZAが運用するGPU

- 2026年５月18日時点でTAIZAが運用するGPUは20,180個
- プロジェクト進捗に応じて順次増加

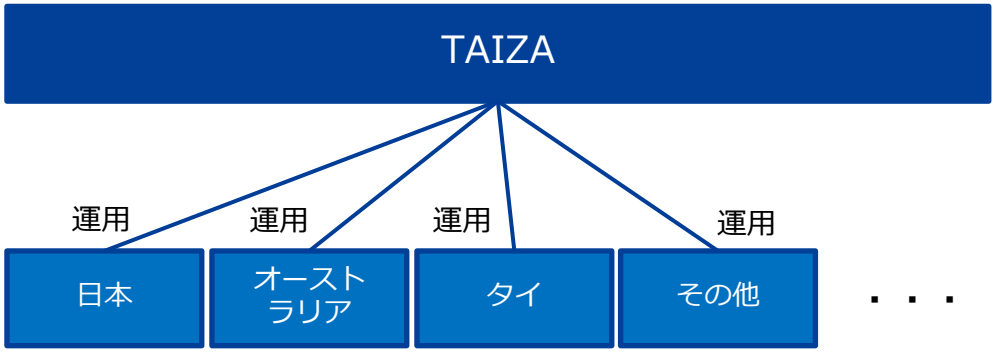
TAIZAが運用するGPU

20,180 GPU

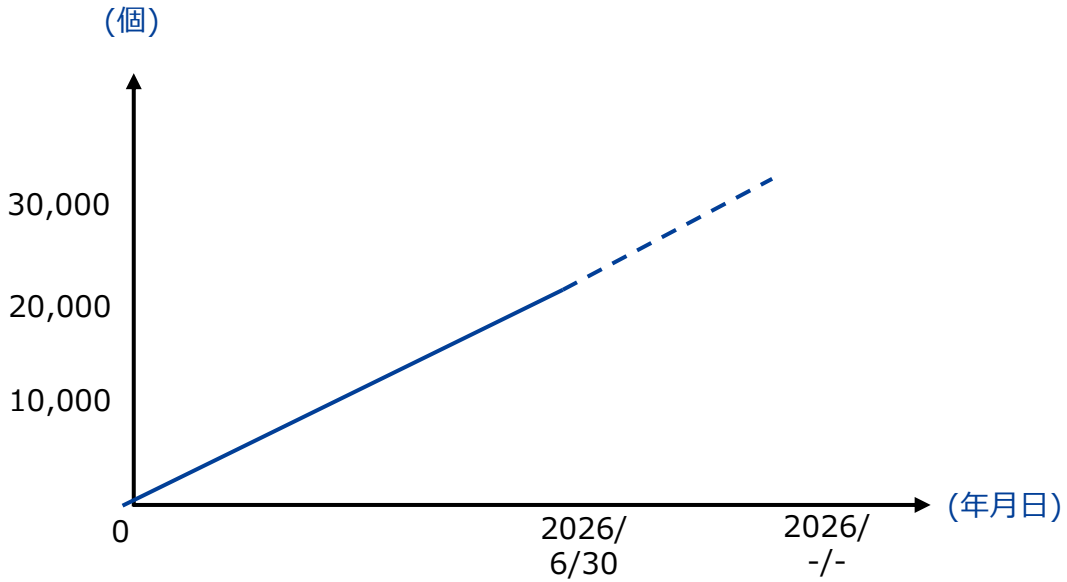
(2026年６月30日現在)



データセクションクラウドスタック「TAIZA」が現在、運用しているGPUの数を表示しています。運用数に応じて、定期的に更新します。



TAIZA運用GPU数推移



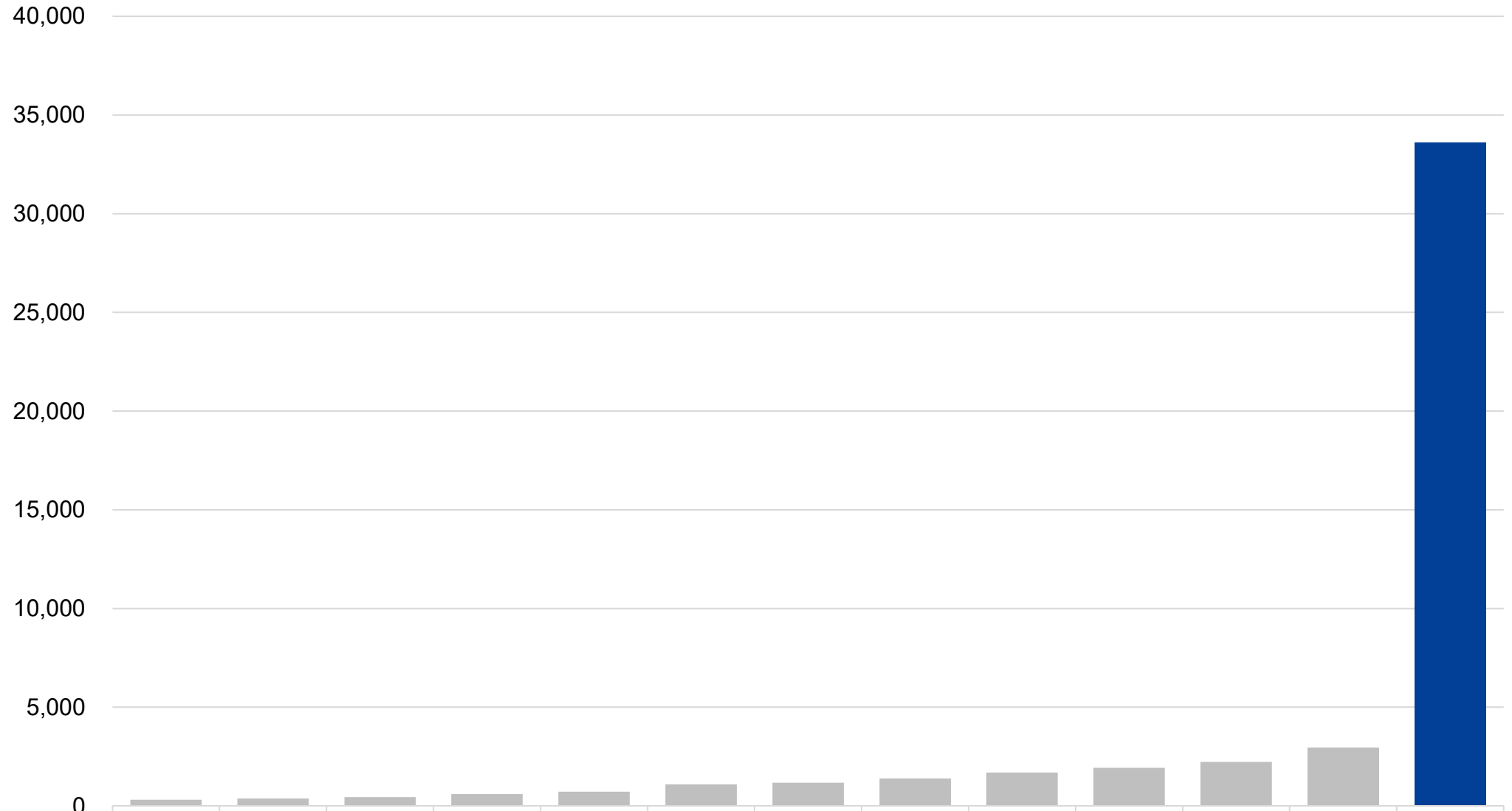
© Datasection Inc.

業績推移ハイライト

© Datasection Inc.

連結 売上高推移

（単位：百万円）



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
売上高	317	376	439	593	721	1,088	1,168	1,389	1,692	1,924	2,229	2,942	33,605

© Datasection Inc.

連結 営業利益推移

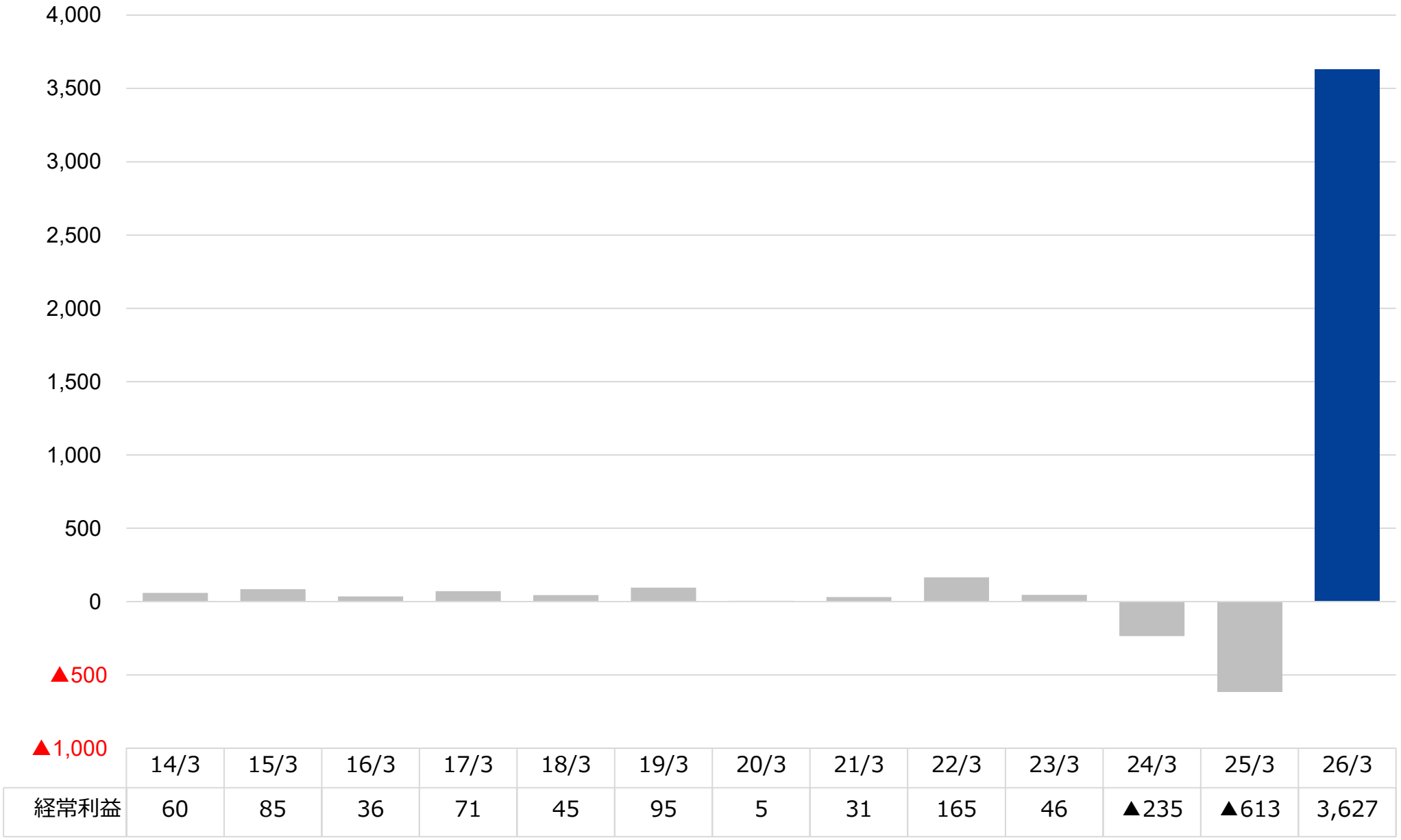
（単位：百万円）

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
営業利益	57	85	28	79	45	100	14	18	77	▲55	▲216	▲496	3,544

© Datasection Inc.

連結 経常利益推移

（単位：百万円）

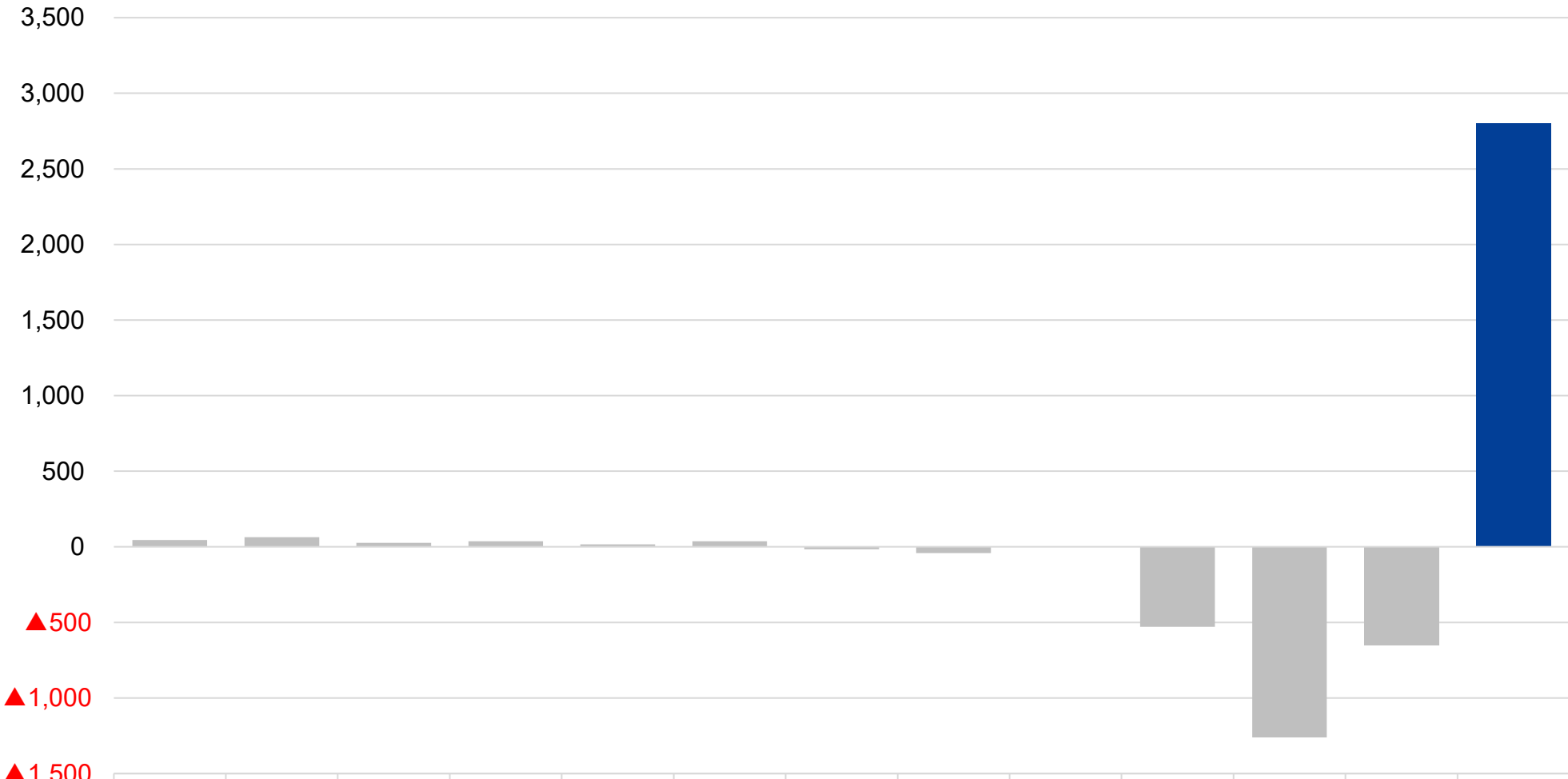


	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
経常利益	60	85	36	71	45	95	5	31	165	46	▲235	▲613	3,627

© Datasection Inc.

連結 親会社株主に帰属する当期純利益推移

（単位：百万円）



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
親会社株主帰属当期純利益	45	63	26	36	16	37	▲17	▲41	2	▲530	▲1,261	▲654	2,801

© Datasection Inc.

注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。
- 今後の「事業計画及び成長可能性に関する事項」につきましては、毎年6月下旬までに開示を行う予定です。

© Datasection Inc.

データセクション株式会社

ir@datasection.co.jp
03-6427-2565

〒141-0031
東京都品川区西五反田１丁目３-８ 五反田PLACE 8階
https://www.datasection.co.jp